

日本赤十字社の災害救護資機材の紹介

大型テント

－ 効果的な救護活動の拠点とするために －

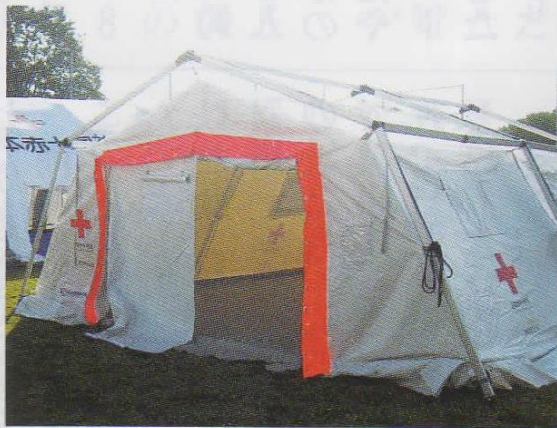
災害救護活動は、被災地に現地本部や医療救護所などの活動拠点を設けて行います。活動拠点は可能な限り既存の建物を利用しますが、確保が難しい場合には公園などにテントを設営します。

東日本大震災では、津波で建物が使用できなかったため、岩手県釜石市の鈴子広場にエアータントを設営し、東京都支部をはじめとする関東甲越地方の各支部の活動拠点としました。

被災地では4月に入っても雪やみぞれが降る日があったり、三陸沿岸部特有の突風にさらされテントが破損したこともありました。このような過酷な状況下でも医療救護活動は続けられました。

そこで、今年度は、風、雨、雪に対する耐候性が高く、シンプルな構造で迅速に設営・撤収ができる大型テントを新たに整備します。

想定されている首都直下地震のような大規模災害が発生した場合には、この大型テントを迅速に設置して医療救護活動の拠点とします。さらに活動が長期化する場合には、プレハブの建物(ユニットハウス)を利用した現地本部や医療救護所を設置する準備も進めています。



整備を進めているリフトテント



東日本大震災でも活用したユニットハウスの救護所